

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

広南中学校区 校番2

呉市立広南小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・丁寧かつ適切に目標・指標が設定され、取り組まれている。 ・昨年度の評価及び改善策を元に適切な目標・指標及び目標値が設定されている。
目標達成のための方策の適切さ	A	・子どもの姿から現状をよく分析し、具体的な方策を考え、実行していた。 ・道徳科の授業で、「考え、議論する道徳」「主体的・対話的で深い学び」に迫る授業づくりに取り組まれている。 ・全体で先生といっしょに声を出しながら学んでいける授業づくりができています。 ・家庭・地域や中学校区と連携した防災教育に取り組んでいる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・成果と課題を簡潔に分かりやすく分析していた。 ・どの学年の授業もいつも落ち着いた学習の雰囲気、温かい緊張感で満ちていて、安心して参観できる。 ・地域との関わりを行事や授業でもつことができている。防災に関する取組は、学園の取組として定着してきている。
今後の改善策(案)の適切さ	B	・具体的で実効可能な改善策が考えられていた。 ・価値葛藤～共感的理解を促す設問・発問の工夫を継続していただきたい。 ・広南流の学びの深まりが楽しみ。 ・児童が立ち止まったときに頑張れる力、自己有用感、リカバリーできる力、あきらめない力をつけてほしい。
その他		・広南の取組は「教育の基本である学校」がやるべきことを着実に積み重ねていると思う。学校評価制度の数値に一喜一憂し過ぎず、自信をもって前進していただきたい。 ・児童が考えたことや感じたことが、文字や発言で、教室にたくさん飛び交うような授業だった。教師の切り返し発問で深まる場面も多くあり、授業改善が学校をあげて行われていることが伝わってきた。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・教職員がこれまでの取組に自信をもち、児童の姿に結果が表れるよう、改善策を教職員間で共通理解し、組織的な取組として推進する。 ・道徳科を中心にした授業づくりが、他教科やその他の学校生活に効果的に表れるよう、関連付けながら取り組む。 ・「コミュニテースクール」について、地域や保護者との深い連携・協力を進めている広南にとっては、小規模小中一貫校の特色を生かすための、また、学校の教育活動を整理整頓するためのよい機会となるのではないかとご意見をいただいた。令和7年度からの「コミュニテースクール」の設立に向けての取組を地域・保護者とともに進めたい。
--------------------	--